



図書だより



令和7年5月9日（金）

第3号

大泉町立西中学校図書委員会

3-3

高橋凜子・富田亜矢乃

新学期からはや1か月が経とうとしています。今月は、初めての行事である体育祭もありますね。お昼休みの練習も始まっていると思いますが、気温が高い日が増えてきたので、体調管理はしっかりと、無理はせずに体育祭で良い思い出が作れるといいですね。

行事で忙しいと思いますが、図書室にも運動に関する本を展示しようと思いますので、見に来てください。裏面には、先月発表になった本屋大賞について書いていますので、図書委員さんおすすめの本と併せて参考にしてください。

図書委員さんおすすめの本

「ただ、それだけでよかったんです [完全版]」
生々しく自殺した。「菅原拓は悪魔」といふ遺書を遺して。この遺書に翻弄される人々と孤独な少年の小さな革命の物語が幕を開ける。面白いから読んでほしい。
高橋凜子



「満月珈琲店の星詠み」

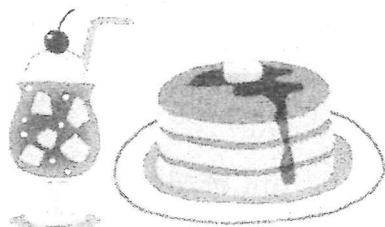
満月の夜にだけ現れる満月珈琲店では、猫のマスターと店員が、極上のスイーツやフードとドリンクで客をもてなす。スナック中のシリアライザー……マスターは訪問客の星の動きを「詠む」。悩める人々を星はどう導くか。
ぜひ読んでみてください!!

3年3組 富田亜矢乃

5月の閉館日

5月は27日（火）、29日（木）が閉館となります。本の返却は

返却BOXへお願いします。



本屋大賞決定

先月、9日に本屋大賞が発表されました。大賞は阿部暁子さんの『カフネ』でした。

離婚し、可愛がっていた弟も亡くしてしまい、自暴自棄になっていた薫子ですが、弟が遺した遺言書の内容を伝えるために元恋人であるせつなに会います。せつなは、もらう権利はないと頑なに拒否をしますが、お互い譲らずその日は別れてしまいます。後日、薫子の家をせつなが訪ねますが、部屋は荒れ放題で何も食べる気が起きず、強いアルコールしか摂取していない薫子に、せつなが気づき家に上がり込みます。そして冷蔵庫にあるものでトマトとツナの豆乳煮麺を作ってくれます。薫子は何も食べたくなかったはずなのに、そのやさしい料理に心癒されます。どうしてこんなことができるのかと聞くと、せつなは家事代行サービスで働いていると言います。弟がその仕事を手伝っていたと聞き、薫子は自分の知らなかった弟を知るために手伝うことを決め、様々な事情がある家庭に行きます。



どうして弟が死んでしまったのか、そして弟が本当にやりたかったことは？

タイトルにもなっており、家事代行サービスの会社名である『カフネ』とはポルトガル語で「愛する人の髪にそっと指を通す仕草」という意味。

全てを読み終えるとこのタイトルに納得します。誰かを愛しいと思うこと。このお話は、食べることを通じて再生していく人々の物語です。

残念ながら、図書室にはまだ置いていないので急いで入荷をしたいと思います。

阿部暁子さんの他の作品は図書室にもありますので、入荷までそちらを読んで待ってみてはいかがでしょうか？

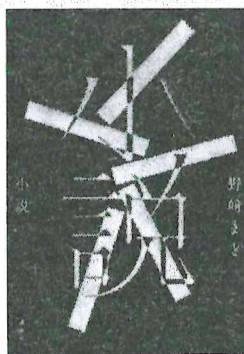
2位



アルプス席の母

早見和真

3位



小説

野崎まど

4位



禁忌の子

山口未桜

5位 人魚が逃げた 6位 spring 7位 恋とか愛とかやさしさなら 8位 生殖記

9位 死んだ山田と教室 10位 成瀬は信じた道を行く

順次入荷予定です。